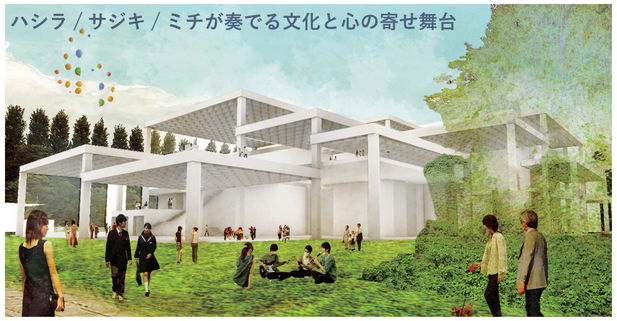
ハシラ / サジキ / ミチが奏でる文化と心の寄せ舞台



ハシラとハシラの間を縫う南北のミチが来訪者を迎え入れ、音楽をはじめとする文化活動が滲みだす

メモリアルホールでは大ホール用の移動式客席を常設し、式典やミニコンサートが開催される

復興コンサートなど臨時な公演時には、防音ガラス越しに大ホールと展望テラスとを連結させることも可能

中ノ瀬橋から見た風景 / 大ホールのホワイエと展望テラスで賑わっている様子が見える

1. ハシラ / サジキ / ミチによって生まれるホール

建築空間の魅力と総合デザイン

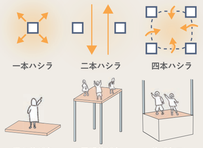
「見る・見られる」の関係が流動し、観客・演者・地域住民が「居やすい」ホール

従来のホールは、観客が演者を見るという一方的な関係性に合わせて空間が用意されてきました。今回の複合施設では、演者による音楽・舞台芸術のみならず、広く市民に開かれた多様な文化活動の場を実現するため、二項対立的な「舞台⇔客席」の緊張感から解放された空間を目指します。そのために私たちは、建築と舞台の原初的な構成要素を見直し、「ハシラ」「サジキ」「ミチ」に基づく建築・ホールの在り方を提案します。

柱に囲われた舞台（出雲の阿国が能舞台を歌舞伎に代用）と、高見の桟敷席（「阿国歌舞伎図屏風」）

「ハシラ（柱）」：居場所・活動範囲の目印となり、緩やかに領域を規定する

古来より建築の柱は、空間の分割、視線・動線の操作といった視覚的・心理的な効果を持ってきました。能楽においても、4 つの柱が観客の視線を集める舞台領域を示すとともに、シテが舞う目印になるとされています。本提案では、このような多義的なハシラを様々なスパン・高さで配置することで、空間を緩やかに分け、多様な活動の下地を用意します。

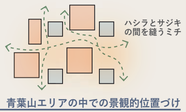


「サジキ（桟敷）」：見る場でありながら、同時に見られる場ともなる

一段高く設けられた観覧席を桟敷と呼びます。本来は演劇や祭礼を良く見ることができる上等席ですが、一方で、周囲からよく見られるという性質も持ち合わせています。このように「見る・見られる」の関係が双方向に発生する場こそが、音楽・舞台はじめとする芸術文化を存分に享受するのに相応しいと考えています。

「ミチ（路）」：個々の場から場を繋ぐ、道行きの過程

本計画の施設は、音楽・舞台から災害文化といった実に多種多様なプログラムが複合し、仙台フィルから市民まで様々な演者が想定されることから、個々の領域を繋ぐ動線を設けることで、文化と文化、人と人の交流や創造的取組の拡大を図ります。単なる諸室の廊下ではなく、ハシラ・サジキの間を縫いながら、奥性を持ったミチとすることで、先の活動が気になる魅力的な動線を実現します。



2. 仙台のまちを見守るサジキとしての施設

青葉山エリアの中での景観的位置づけ

仙台のまちと対峙し、展望しなかも思いを馳せる場

・室内外に落ちるハシラは、東西方向に立ち並ぶことで、緩やかにまちと対峙する方向性をつくり出しています。この方向性に沿って、屋上テラスや 3F のクワイエットスペースから広瀬川越しに仙台のまちを臨み、思いを馳せることができます。
・方向性のあるハシラと対応する大屋根による建築は、まちに対する大きなサジキ（＝高見席）となり、震災メモリアル拠点として相応しいアイコンになることを目指します。

まちへの方向性
仙台市役所
仙台駅
仙台フィルハーモニー
仙台市民会館
仙台市立病院
仙台市立中央図書館
青葉城址
東北大学
青葉山
仙台城跡
青葉山公園
青葉山庭園
青葉山公園
青葉山公園
青葉山公